【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 計画

- 達成度 (評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

前年度 評価結果の概要

学校名

繰り返して確実に定着を図る学習と、自分の思いや考えをお互いに出し合う「学び合い」活動を日常の授業にしっかり位置づけて、更に継続して取り組む必要がある。 · 相手意識が希薄で、自分本位の言動も散見されることから、公共性、社会性を育てるとともに、自ら考えて行動する機会を増やし、更に、自立した態度や行動がとれるようにする。

・学校運営協議会や轟・大野原コミュニティとの連携を更に深め、地域人材を活用したり、児童が地域に出ていくような活動を推進する必要がある。

学校教育目標

夢をもち、ふるさとを愛し、生き生きと学ぶ轟っ子の育成

嬉野市立轟小学校

本年度の重点目標

① 主体的な学びと豊かな表現力の育成 ② 心に響く生徒指導及び特別支援教育の充実

③ 健康で、逞しい体づくり

④ 校区小中学校、地域コミュニティとの連携強化による教育活動の充実

© NEWTHAN CONTINUE OF A PARTIES										
		中間評価		5 最終評価						
(1)共通評価項目										主な担当者
	重点取組		具体的取組	W 14-4-	中間評価	100 - D - D	最終評価		学校関係者評価	1.02.11
評価項目	取組内容	成果指標 (數值目標)	25 MAT 14 YAU	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイブランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するととも に、校内研修等により取り組みの促進を 図る。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイブラン の成果指標を達成した教師は100%だったことから、今後もこの取り組みを継続していく。	A	・成果指標を達成した教師は100%だった。 全職員の共通理解のもと、具体的取組を推進 した成果と言える。	A	・素晴らしいことだと思う。	◎学力向上対策コーディネーター・研究主任・しっかり学ぶ子プロジェクト
	○問題解決能力の育成	○「友達と話し合う活動を通して自分の 考えを深めたり、広げたりすることができ ていると思う」と回答した児童80%以上	したり書いたりすることができるような支	A	・友達と話し合う活動に関するアンケート調査 で肯定的な回答をした児童が82%だったこと から、今後も場の設定や学習支援等を継続し ていく。	A	・肯定的な回答をした児童が93.8%だった。 全職員の共通理解のもと、場の設定や学習 支援等を継続して行った成果だと言える。	A	・友だちの力を最大限に生かそうとする発想 は画期的。一方、6.2%の子に対しては、様子を見ながら進めてほしい。	◎研究主任・学力向上対策コーディネーター・しっかり学ぶ子プロジェクト
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 観や正義感、感動する心など、豊かな心 を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定 的な回答をした児童80%以上	- 道德教育や体験学習、奉仕体験など の様々な活動を通した指導の充実を図 る。 ・自分の成長や高まりを実感できるよう なかかわりや声かけ(教師の評価)を行 う。	A	・すべてのクラスで80%以上の児童が、遺徳 に関するアンケートにおいて肯定的な回答を したことから、今後も自分の成長や高まりを実 感できるような教師による承認、称賛、励まし を継続していく。	A	- 肯定的な回答をした児童が100%だった。 全職員の共通理解のもと、自分の成長や高ま りを実態できるような教師による承認、称賛、 励ましを継続して行った成果と言える。	A	・「今日、学校が楽しかった。」と思ってくれることだけでも素晴らしいことだと共感した。	◎道徳教育推進教師 ・いたわる心ブロジェクト
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	Oいじめ防止等について、組織的対応ができていると回答した教師80%以上	・いじめ問題に関する体制を明確にし、報告・連絡・相談を徹底する。 必要に応じて、体制の見直しを行い、 結果を保護者にも周知する。	A	・「いじめ防止等について、組織的対応ができている」と回答した教師は100%だった。 ・引き続き、疑わしい事案が発生した際は、報告・連絡・相談を密にし、組織的な対応を徹底していく。	A	・肯定的に回答した教師が100%だった。基本方針も見直しを行うとともに、疑わしい事案 が発生した際は、報告・連絡・相談を密にし、組織的な対応を徹底して行った結果と言え る。	A	・このまま組織的な対応をしてほしい。	・◎生徒指導主任 ・いたわる心プロジェクト
	◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動		・体験活動等における「キャリアパスポート」を活用した指導の充実を図る。	A	・「将来の夢や希望を持っている」というアンケートで肯定的な回答をした児童は100% だった。 ・引き続き、「キャリアパスポート」を活用した 指導等を行う。	A	・肯定的な回答をした児童は95.1%だった。 一方、保護者においては、80%だったことか ら、今後の課題と言える。 ・家庭で話す機会を設けてもらうなど、今後連 携した取り組みが必要である。	A	・子どもと保護者の15パーセントの差について考えることは必要。	◎特活主任 •各担任 •教務主任
●健康・体つくり	の育成	児童80%以上	・学校栄養士と担任による食に関する指導、食育月間の取り組みを行う。	A	・すべてのクラスで80%以上の児童が「健康 に食事は大切である」と回答した。 ・今後も食に関する学校栄養職員との授業実 践を全学年行っていく。	A	・肯定的な回答をした児童は、100%だったが、食事の質に関しては、課題も見られる。 ・次年度は、家庭の協力を得ながら、食事の質の向上に向けて取り組んでいく。	A	・食育は大切だと思う。朝ごはんを全児童が食べてきてくれたらと思う。 ・食の質の向上を図るには、学校だよりや食 生活改善協議会と連携したコミュニティ通信 等で発信することが大切。	◎食育担当・保健主事・バランスのよい体プロジェクランスのよい体プロジェクター
	○運動習慣の改善や定着化	○天気がよい日は、外で遊んだり運動したりする児童が80%以上	・体を動かすことが好きだと思える児童 が増えるように体育の授業の充実を図 る。・週に一回以上は外に出て遊ぶように呼びかける。	В	- 天気がよい日は、外で遊んだり運動したりする児童が80%に満たなかったことから、新た に全校児童が遊ぶ日を定期的に実施し、外に 出て遊ぶようにすることを促す。 ・体育の授業や放送での呼びかけの充実を図 ることを継続する。	A	- 外で遊んだり運動したりする児童が、81.5%と成果指標を達成した。 5%と成果指標を達成した。 - 中間評価の結果を踏まえ、新たに、毎週金曜日に全校児童が遊ぶ日を実施し、外に出て遊ぶように促した成果と言える。	A	・外で運動、遊びなどが難しい時ですが、暖か くなり、元気に外で動けることを願う。 ・子どもの仕事と思っていた外遊びが、「促す」 項目になっているのに一番驚いた。	◎体育主任 ・保健主事・食育担当・パランスのよい体プロジェクト
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間 の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校 等時間の上限を遵守する。(月45時間)	・タイムマネジメントを意識し、業務の効率化へ向けて、一人一人の働き方を見直す。 ・定時退動日、学校閉庁日の設定と徹底。	В	・全職員の時間外勤務時間の平均約31時間であり、優先順位を決めて仕事の効率化を図る教職員の意識が高い。 ・教職員への業務効率化への声かけや年休が取りやすい雰囲気づくりに努め、定時退勤日での退動の一層の徹底を図る。	A	・全職員の時間外勤務時間は、平均約30時間であり、成果指標を達成した。 ・業務の効率化を図うとする職員の意識は高いが、実際は、年休の取得率が低かったり、一部の教職員の退動時間が遅くなってしまったりする傾向がある。引き続き、声かけや年休が取りやすい雰囲気づくりに努めていく。	A	・健全な体づくりに心がけてほしい。 ・先生方が19時までに帰宅できているので、 これからも継続してほしい。年休も取れたらい い。	◎管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
			中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者		
評価項目	重点取租内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
〇小中連携	○小中連携による学力向上の推進		・「授業づくりステップ・2・3」を活用した わかる授業の確実な実施を図る。 ・基礎・基本の定着と活用力を伸ばす課 題づくりと実践に取り組む。	A	・小中学校区で定めた学力向上の取組を達成 した教師は100%であり、小中連携研修会や 他校の授業研究会を通して、今後も共通した 実践に取り組んでいく。	A	・取組を達成した教師は90.9%であり、中間評価から、やや数値は低くなったが、成果指標を達成した。 ・分かる授業の確実な実施と基礎基本の定着と活用力を伸ばす課題づくりの実践に取り組んた成果と言える。また、県学習状況調査の結果から、目標としている数値にほぼ到達することができた。来年度も共通実践に取り組んでいく。	A	・これからも小中の連携は推進してほしい。 ・「分かって楽しい」授業が子どもたちの興味 関心を引き出して効果的な学習になる。	◎研究主任 ◎学力向上対策コーディネー ター
〇保護者, 地域との連携	〇学校運営協議会を通した保護者と地域の連携強化	○保護者や地域と連携した学校の教育 活動に肯定的な回答をした保護者や地 域の方の割合80%以上		A	・保護者や地域に各種の便りを発行したり、マ チコミメールやHP等を活用したりして、教育実 護を周知させた。 ・引き続き、相互の連携を意識した活動に取り 組んでいく。	A	・肯定的な回答をした保護者の割合は、97.3%であり、成果指標を達成した。 ・教師も保護者や地域と連携した教育活動 に、取り組んだと100%回答しており、活動の 意図や目的等を意識しながら実施した成果と 言える。	A	・学校と地域コミュニティとの連携はできていると思う。	◎管理職
〇特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上 した教師80%以上	・特別支援教育に関わる研修を年1回以上実施する。 ・支援の実態や状況を全教職員で共有 し、個別の支援を徹底する。	A	・「特別支援教育に関する専門性が向上した」 と回答した教師は100%だったことから、今 後もSC等を活用した研修を継続的に行った り、文科省作成のリーフレット等を活用したり しながら、専門性を高める。	A	・専門性が向上した」と回答した教師は10 0%だった。支援を要する児童の状況を共有 し、全職員で検討したり、特別支援学校の巡 回相談やSC、SSWなどの専門家からのアドバ イスをもらったりしながら、個に応じた支援の 在り方を探り、実践してきた成果と言える。	A	・専門性とは、具体的にどのようなものか、支障がない範囲で教えてほしい。	◎教育相談 ・特別支援教育コーディネー ター
●…県共通 ○…学校独	 白 〇・・・志を高める数音									
→ 水八組 ○ 予权和	I O OCHOWNA									

5 総合評価・ 次年度への展望 総合評価については、全てにおいて成果指標を達成することができた。引き続きに、取組みの充実に努める。・食事の質の充実に向けた取組みをしていく。・家庭と連携した将来の夢や目標を持つ児童の育成に取組む。